

みんなの活動室 版画アトリエ一般開放

川崎市市民ミュージアムでは、特徴的な収蔵部門である版画の普及を目指し、2013年5月より、シルクスクリーンとリトグラフで制作活動されている方を対象にアトリエを開放し、市民活動の場として提供しています。

制作活動の支援を目的に、アトリエ指導員には若手版画家を起用しています。アトリエ指導員の役割は、利用者のサポート、プレス機や感光機のメンテナンス、初心者向け講座の実施などです。アトリエを自主制作の場とし、より創作活動にうちこんでいただきたいと考えています。その集大成として、このたび「第6回版画アトリエ指導員大杉祥子・二井矢春菜2人展 庭には niwa ふたり」と題し、成果発表展を開催する運びとなりました。



「みんなの活動室 版画アトリエ一般開放」のご利用については、当館ウェブページをご覧ください。

<交通案内>

当館に専用駐車場はありません。お車でお越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。駐車料金の割引等はありません。

JR・東急武蔵小杉駅北口1番乗り場からバスで約10分
「市民ミュージアム前」下車すぐ



〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2 (等々力緑地内)
TEL:044-754-4500 FAX :044-754-4533
<http://www.kawasaki-museum.jp/>

川崎市市民ミュージアム 2019年2月発行



第6回版画アトリエ指導員

大杉祥子・二井矢春菜 2人展

会期 2019年3月2日(土)～16日(土)

会場 川崎市市民ミュージアム 3階
ミュージアムギャラリー1

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日

アーティストトーク 3月3日(日) 14:00～15:00

ワークショップ 3月9日(土) 13:00～15:00※
※参加費200円



大杉 祥子
二井矢 春菜

庭には
niwa
ふたり

第6回 川崎市市民ミュージアム指導員展





近くて遠い場所への旅

近くて遠い場所とは、今この場所からどれくらいの距離にあるのかといった現実的なものではなく、ある種の情感に支えられて想像してしまう場所。今ここから少しだけ遠いところにある懐かしくも心地よい別次元に存在するようなもの。導かれて気づけば心はそこにある。そんな想像の旅によって出会う場所では心が癒されそうな気もしてくる。

大杉祥子さんの作品には郷里・長崎の祖父母をモチーフとした特徴的な作品がある。登場する祖父母の姿は、かつて昭和の時代に流行った紙を切り抜いて作られた着せ替え人形遊びのように明治時代の洋装だったり今風だったりファッションが替わる。版画4版種の名前が付けられた4人姉妹の紙人形も特徴的。最近始められたレジャーシートによる旅シリーズも興味深い。そんな制作を通じて、彼女自身の記憶に在る過去というより祖父母が持っていただろう過去の映像の一コマをビジュアル化することで想像の翼が羽ばたき、彼女自身と過去の祖父母とつながり、ささやかな幸福感が湧いてくるのだろう。レジャーシートの旅シリーズには、広げられたレジャーシートのその範囲(自身の意識がおよぶ領域の輪郭)の内側に現実という外界から隔離されて守られた身震いするような安心感に彼女自身の実体というものを感じ、浸っていたいという気持ちが伝わってくるかのようだ。それらはどれも肉筆によるリアルな写実表現ではなく、イラスト風のポップで親しみやすいイメージが版画で表現されていることで多くの人たちが大杉さんの思いにアプローチしやすくなっている。

草原と遊ぶ鳥たち。夜、木々の間に留まって眠る鳥たち。そんな二井矢春菜さんの作品からは、彼女自身の幸せな記憶や望みでももうような優しい情感が伝わってくる。その情感は現在の彼女自身とどこかで地続き状態でつながっていて、実際の自然や記憶の中の風にたなびく草原とその上を舞い飛ぶ鳥たちとの優しい交感といったものが、手わざに邪魔されることのない版画という客観的な手法によって、「こうありたいという一つの情景となって表れている。彼女の作品の前では、きっと誰もが経験しているだろう記憶の深いところに仕舞われている懐かしく幸せな情景と再会することになるのだ。二井矢さんにとって、制作とは「製版と刷りを何度も繰り返しながら、ゆっくりとイメージを立ち上げる作業は、自分自身と向き合う大切な時間であり、「目に見えない想いや他者との関係を見直すきっかけ」であり、そうして制作された作品は「人生の豊かさ」を実感できる時間と場所なのだろう。

川崎市市民ミュージアム館長・大野正勝

大杉祥子

〔略 歴〕

1990年 長崎県生まれ

2017年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程修了

〔個 展〕

2018年 「さよならカステラまた来てチャンボン」文房堂Gallery Cafe(東京)

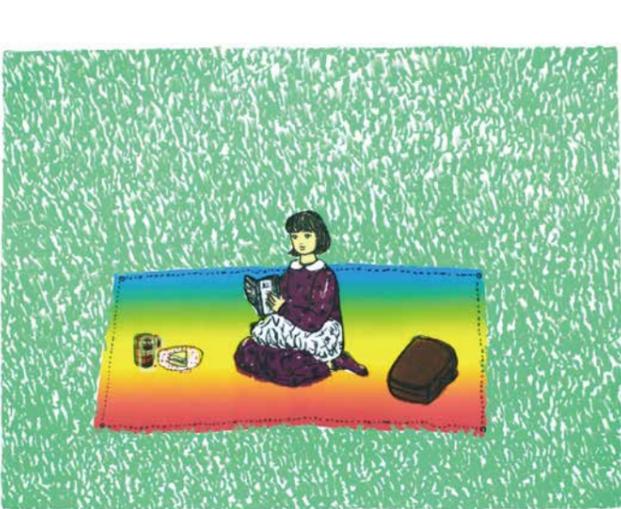
〔受賞歴〕

2015年 東京藝術大学 俵奨学金 俵賞受賞

2017年 第2回アートオリンピック2017 学生部門入賞

第42回全国大学版画展 収蔵賞

大杉祥子



〈レジャーシートジャーニー〉 2018年 リトグラフ 200mm×270mm

これまで私は、身近にあるモチーフから長崎版画や祖父母をモデルに制作してきました。

今回の展示では、ミュージアム周辺で気になったことを武蔵小杉までの帰り道に考えながら進めていきました。

雨の中グラウンドで走っている人、子供連れの家族、人が居ないと少し寂しくなるとどろきは散歩にちょうどいい場所でした。

いつかお天気の日にはピクニックをと思いつつ、レジャーシートが必要な時に見つからないまま季節は過ぎて行きそうです。

"可愛い子には旅をさせよ"リトグラフで刷ったレジャーシートジャーニーはフィクションです。

二井矢春菜



〈草むら 夜〉 2015年 シルクスクリーン 1000mm×1500mm

私の描くモチーフは、誰もが目にする身近な自然です。

シルクスクリーンを使い、製版と刷りを何度も繰り返しながら、ゆっくりとイメージを立ち上げる作業は、自身と向き合う大切な時間であり、普段の生活の中で忘れがちになりやすい、自身も自然の一部であり、共に生きているということを思い出させます。

モノや情報が溢れる今の時代だからこそ、自身の経験や、知っていること、見聞きしたこと、目に見えない想いや他者との関係を見直すきっかけとし、私にとっての「人生の豊かさ」とは何かを模索しながら、絵を描いたり、物を作っています。



〈鳥とミモザ〉 2016年 シルクスクリーン 180mm×200mm